

平成 25 年度 事 業 計 画 書

平成 25 年度 収 支 予 算 書

自 平成 25 年 4 月 1 日

至 平成 26 年 3 月 31 日

公益財団法人 早期胃癌検診協会

目 次

I 平成 25 年度事業計画書

1	はじめに	1
2	調査研究事業	2
	(1) 共同研究事業	
	(2) 個別研究事業	
	(3) 学術研究会事業	
	① 早期胃癌研究会	
	② 大腸研究会	
3	研修指導事業	9
	(1) 上級早期胃癌診断研修	
	(2) 国内医師に対する研修	
	(3) 放射線技師に対する研修	
	(4) 平成消化器懇話会の開催	
4	普及啓発事業	11
	(1) 保健指導者セミナー（「健康開発りぽーと」の発行）	
	(2) 公開講座	
	(3) ニュースレターの発行	
5	検診・診療事業	12
6	法人運営	13

II 平成 25 年度収支予算書

15

I 平成 25 年度事業計画書

1 はじめに

当協会は、昭和 42 年 9 月の発足以来、主に早期胃がんの学術的及び診断技術的研究を行い、あわせてその普及に努めてきたところである。

平成 24 年 4 月 1 日に、公益財団法人として設立登記を行い、同日付で新たなスタートをきった。今後は、消化管がんの検診・診療施設としての歴史、伝統及び業績を守りつつ、公益財団法人としての公共的責任と社会的役割を果たしていかなければならない。

当協会の使命は、生活習慣病を中心とした検診及び治療、早期胃がんをはじめとする消化器がんの学術的及び診断技術的な研究、並びに医学界及び一般社会に対する研修及び普及啓発活動を行い、もって都民のがん対策及び健康増進に寄与することである。そのため、(1)早期胃がんを中心とした消化器がんに関する診断方法及び疾病動態の研究、(2)学会及び研究会等への財政的・技術的支援、(3)医師等を対象とする消化器がん診断技術の専門的研修、(4)消化器疾患に関する健康相談及び啓発、(5)生活習慣病の予防及び早期発見に必要な各種検診並びに必要な治療を事業の柱とする。

平成 25 年度は、これまで以上に研究事業及び普及啓発事業に力点をおくとともに、社会的ニーズが高まっている特定保健指導の実施及びその研究に取り組み、公共的責任と社会的役割を果たせるように努めていく。

2 調査研究事業

調査研究事業には、研究本部の研究室メンバーが共同して行う共同研究事業と職員が個別に研究テーマを設定して行う個別研究事業、そして症例検討会等を開催し支援する学術検討会事業がある。

(1) 共同研究事業

共同研究事業は、平成 22 年 4 月に組織された研究本部に所属する研究室が、その中長期目標を達成するために行う研究事業である。平成 25 年度の研究テーマは、平成 24 年からの継続のものが 3 テーマ、新規のものが 2 テーマであり、それぞれの研究内容は次のとおりである。

なお、研究テーマについては、外部の有識者を含めた「研究事業評価委員会」において、有用性、独創性、実現性等を評価して総合判定が A 又は B であり、研究の継続・開始が承認されたものである。

〈研究テーマ〉

① より効果的な食道・胃・大腸・肺がんリスク検診に関する研究（継続）

（研究本部検診システム研究室）

X 線検診を中心とした胃がん検診の先導的立場を堅持しつつも、日本人の疾病構造の変化に合わせた新しいがん検診の方法を検討することは重要である。その観点から、主に企業従業員を対象とした新しい視点からの「食道・胃・大腸・肺がんリスク検診」を検討する。平成 24 年度は、文献的検討結果から、便潜血検査、血清ペプシノゲン値、血清ピロリ抗体、飲酒、喫煙、年齢をリスク評価指標として選定した。平成 25 年度は、食道・胃・大腸・肺がん別にリスク評価からみた検診方法の具体案を検討する。

② より効果的な特定保健指導に関する研究(内臓脂肪面積データの解析)(新規)

（研究本部保健指導研究室）

高齢者の医療の確保に関する法律によって平成 20 年 4 月から開始された特定健診でメタボリック症候群該当者と判定された特定保健指導対象者に「動機付け支援」「積極的支援」を行い、その有効性を高める方策について研究する。

平成 24 年度には、対象者の体重の変化を目安とする当協会独自の目標設定を作り、指導を開始した。今後は視点を変えて、新しく開発された内臓脂肪面積測定機を用いた特定保健指導の有用性を検討する。平成 25 年度は、その基礎的検討として、計測した内臓脂肪面積と身長、体重、BMI、血液検査所見との対比検討を行う。

③ 腸上皮化生の進行に伴う早期胃がんの臨床病理所見と内視鏡像の変化(新規)
(研究本部臨床病理研究室)

日本では胃がんの病理組織学的研究が盛んに行われてきたが、英文の論文として諸外国に情報発信されている知見は多くない。そこで、この研究は、胃がんの病態に関する病理組織学的研究を新しい視点から行って、世界的に情報を発信することを目的とする。

平成 24 年度は、現在までに集積した胃切除標本の検索結果から、多発胃がんの頻度は 27%であり、内視鏡的な胃がん切除時には術前内視鏡検査で発見困難ながんがある危険性を認識する必要があることを、英文誌及び欧州消化器連合学会(ueg)で発表した。平成 25 年度は、新しい視点から胃がん発生における腸上皮化生の意義を明確にする目的で、当協会で切除標本が集積されている早期胃がん症例を対象に、背景胃粘膜の腸上皮化生の有無・程度と早期胃がんの関係を検討する。

④ DR-X 線装置を使用した食道連続撮影の検討(継続)
(研究本部画像研究室)

デジタル装置を使用した食道 X 線検査の精度向上のため、デジタル装置の特徴をいかした撮影視野サイズを検討し、食道 X 線検査のデジタル連続撮影基準を提案する。平成 24 年度は、2 枚/1 秒撮影法で、頸部食道を除いて良好な二重造影が得られた。平成 25 年度は、更に検討症例を増やし、バリウムの落下流動速度や経時的な画像変化について検証する。また、特徴的な症例について内視鏡画像と照合し、画像診断の整合性の向上について検討する。

⑤ 検診胃 X 線検査における造影剤少量化の検討(継続)
(研究本部画像研究室)

日本消化器がん検診学会ガイドライン 2011 年改訂版によると、検診胃 X 線検査で使用する造影剤は、濃度 180~220w/v%の高濃度バリウムを 120~150ml 使用すると記載されている。受診者の検査受容性を考慮すれば造影剤量は少ない方が良いが、30ml の差が画像精度にどれほど影響するかを示したデータはない。

そこで、150ml、140ml、130ml、120ml の造影剤量で検査を行って、それぞれの画像を評価することで、画像精度に影響を与えない範囲での造影剤の少量化の可能性を検討する。平成 24 年度の 120ml と 150ml の比較検討では、どの形状の胃であっても、150ml 群が良好な造影効果を示した。平成 25 年度は、130ml、140ml について検討する。

(2) 個別研究事業

個別研究事業は、平成 24 年度から継続して研究するものが 1 テーマ、平成 25 年度から新たに研究するものが 2 テーマの合計 3 テーマであり、それぞれの研究内容は次のとおりである。

なお、研究テーマについては、外部の有識者を含めた「研究事業評価委員会」において、有用性、独創性、実現性等を評価して総合判定が A 又は B であり、研究の継続・開始が承認されたものである。

<研究テーマ>

① 内視鏡的正常胃粘膜症例の病態に関する内視鏡的研究（継続）

研究責任者：榎 信廣（研究本部）

胃がんリスク検診（ABC 検診）の実施にあたっての問題点を検証する目的で、胃内視鏡所見から判別した A 群（正常粘膜）、B 群（軽度萎縮）、C 群（高度萎縮）の性別・年齢別の頻度の検討とともに、A 群を検診範囲から除いた時のリスクを検討する。平成 24 年度は、1,609 例の検診受診者の内視鏡画像を検討した結果、A 群（正常粘膜）は、男性では 20-30 歳代 67.6%から 70-80 歳代 22.3%、女性では 81.3%から 45.2%に漸減していた。なお、この検討結果は、雑誌「消化器内視鏡」に発表した。平成 25 年度は、内視鏡で判定した A 群について、診断された病変の頻度及び腺がんの発生母地として注目されているバレット上皮の頻度を検討する。

② ラベプラゾールを用いた除菌治療の有用性の検討（新規）

研究責任者：尾割道代（診療科）

強力な酸分泌抑制作用を持つプロトンポンプ阻害薬ラベプラゾールを用いた、ヘリコバクター・ピロリ除菌療法の有用性を検討する。

平成 25 年度は除菌治療を希望する患者を登録して、一次、二次、三次除菌の除菌率・副作用を検討するとともに、治療後の経過観察を行い、胃がん発生などの予後調査を行う。

③ ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎の内視鏡診断に関する研究（新規）

研究責任者：榎 信廣（研究本部）

ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎が除菌治療の保険適応になる状況を踏まえ、胃炎の内視鏡診断について再検討する。従来の慢性胃炎の診断は胃粘膜の萎縮を中心に評価したものであったので、新たにピロリ感染状態であることを示す「炎症」の所見を加えた胃炎内視鏡診断を提唱した（消化器内視鏡 24:1580, 2012）。

平成 25 年度は、「炎症」の内視鏡所見とピロリ感染状態との関係を検討する。

(3) 学術研究会事業

研究会の開催等については、これまで継続して行ってきたものを基本として、さらに充実を図っていく。開催、支援している研究会は、次のとおりである。

① 早期胃癌研究会（毎月開催）

東京都を中心に全国の大学、医療機関から提出される食道がん・胃がん・大腸がん並びに消化管の腫瘍性疾患の X 線・内視鏡画像（平均 5 症例）と病理所見について、厳しい討論が行われる。この研究会での高度かつ専門的な症例検討は、医学雑誌「胃と腸」に掲載され、早期消化管がんの診断法の進歩及び普及に貢献している。

出席者は毎回約 600 名、うち都内在住者は約 50%、主たる参加施設数は約 90 施設に及ぶ。当協会としては、協会附属茅場町クリニック所長の長浜隆司が運営幹事として研究会の企画運営にあたりるとともに、編集委員として研究会機関紙「胃と腸」の発行に積極的に関わっている。

さらに、研究会においても当協会所属医師が毎回積極的に討論に参加し、その診断法の進歩に貢献するとともに、年数回は症例を提出するなど、討論においてリーダーシップを発揮している。

ア 早期胃癌研究会運営幹事

（平成 25 年 1 月 31 日現在）

【運営委員長】

齊 藤 裕 輔 市立旭川病院消化器病センター

【運営幹事】

（臨 床） 8 名

赤 松 泰 次 長野県立須坂病院内視鏡センター

小 山 恒 男 厚生連佐久総合病院胃腸科

清 水 誠 治 大阪鉄道病院消化器内科

田 中 信 治 広島大学内視鏡診療科

長 浜 隆 司 早期胃癌検診協会附属茅場町クリニック

二 村 聡 福岡大学医学部病理学講座

松 本 主 之 九州大学大学院病態機能内科学

山 野 泰 穂 秋田赤十字病院消化器病センター

（病 理） 3 名

江 頭 由太郎 大阪医科大学病理学

九 嶋 亮 治 国立がん研究センター中央病院病理科

八 尾 隆 史 順天堂大学大学院医学研究科人体病理病態学

（五十音順）

イ 研究会における成果発表及び編集委員

＜雑誌「胃と腸」（発行元：医学書院）＞

早期胃癌研究会において検討された症例は、編集会議を経て、雑誌「胃と腸」に掲載される。また、毎号特集する主題が選定され、主題関連論文（X線診断、内視鏡診断、病理診断等）が執筆、掲載される。

ウ 平成25年4月～平成26年3月 日程予定表

日	時	会 場
4月17日（水）	18:00～21:00	東京商工会議所 4F 東商ホール
5月9日（木）	18:00～21:00	第52回「胃と腸」大会 国立京都国際会館
6月19日（水）	18:00～21:00	笹川記念会館 2F 国際会議場
7月19日（金）	18:00～21:00	グランドプリンスホテル新高輪 国際館パミール
8月		休 会
9月18日（水）	18:00～21:00	笹川記念会館 2F 国際会議場
10月23日（水）	18:00～21:00	笹川記念会館 2F 国際会議場
11月20日（水）	18:00～21:00	笹川記念会館 2F 国際会議場
12月18日（水）	18:00～21:00	笹川記念会館 2F 国際会議場
1月15日（水）	18:00～19:30	東京商工会議所 4F 東商ホール
2月19日（水）	18:00～21:00	笹川記念会館 2F 国際会議場
3月19日（水）	18:00～21:00	笹川記念会館 2F 国際会議場

② 大腸研究会（毎月第2月曜日開催）

この研究会は、大腸の腫瘍性疾患のみならず、炎症性疾患など大腸疾患全体について専門的な検討を行うことを目的としている。

東京都を中心に国内の大学、病院から提出される症例について、X線、内視鏡、病理所見についての最先端的な検討、討論を行っている。

当協会所属医師は、この研究会への参画を通して、若手研究者の育成に貢献している。

【代表世話人】

（平成25年1月31日現在）

鶴田 修 久留米大学医学部消化器病センター内視鏡診療部門

【世話人】 10名

味岡 洋一 新潟大学大学院分子・診断病理学

池上 雅博 東京慈恵会医科大学病院病理部

大倉 康男 杏林大学医学部病理学教室

斎藤 彰一 東京慈恵会医科大学内視鏡科

高木 篤 みなと医療生活協同組合協立総合病院内科

津田 純郎 岡山市医師会総合メディカルセンター附属診療所

富樫 一智 福島県立医科大学会津医療センター準備室

福島県立会津総合病院

長浜 隆司 早期胃癌検診協会附属茅場町クリニック

西俣 嘉人 南風病院政記念消化器病研究所

渡邊 聡明 東京大学大学院医学研究科臓器病態外科学講座

腫瘍外科学

【会計幹事】 2名

河野 弘志 久留米大学医学部内科学講座消化器内科部門

中島 寛隆 早期胃癌検診協会附属茅場町クリニック

（五十音順）

平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月 日程予定表

日	時	会	場
4 月 22 日(月)	18:00～21:00	東京商工会議所	地下 2 階 講堂
5 月	18:00～21:00	休	会
6 月 24 日(月)	18:00～21:00	東京商工会議所	地下 2 階 講堂
7 月 22 日(月)	18:00～20:00	東京商工会議所	地下 2 階 講堂
8 月	18:00～21:00	休	会
9 月 30 日(月)	18:00～21:00	東京商工会議所	地下 2 階 講堂
10 月	18:00～21:00	休	会
11 月 25 日(月)	18:00～21:00	東京商工会議所	地下 2 階 講堂
12 月 16 日(月)	18:00～20:00	東京商工会議所	地下 2 階 講堂
1 月 27 日(月)	18:00～21:00	東京商工会議所	地下 2 階 講堂
2 月 24 日(月)	18:00～21:00	東京商工会議所	地下 2 階 講堂
3 月 24 日(月)	18:00～21:00	東京商工会議所	地下 2 階 講堂

3 研修指導事業

都内及び国内各地の専門医、医療技術者、さらには海外の専門医に対し、早期消化器がんの診断技術取得を目的とした研修会、セミナーなどを実施する。

(1) 上級早期胃癌診断研修

この研修は、日本の消化管がんの早期診断、低侵襲治療及びその基礎である病理学が世界最先端に位置していることを背景として、国際協力機構（JICA）の委嘱を受け、国内関係者の全面的な協力のもと、30年以上に渡って継続している人材育成事業である。

平成17年度からは、中南米諸国・アジア諸国を対象とした新たな研修コース（Advanced Training Course for Detection of Early Gastrointestinal Cancer and Related Digestive Tumors）を実施している。

この研修は、消化器領域の医療に10年以上の経験を有し、帰国後は自国における消化器がんの教育・指導者になることが期待されている医師を対象としており、JICAの人材育成事業の中でも高い評価を得ている事業の一つである。

平成25年度は、平成26年2～3月に開催する予定である。

(2) 国内医師に対する研修

当協会は、消化管がんの診断に関してX線・内視鏡診断を含めた総合的な研修が行える数少ない施設であり、当協会での研修を希望する医師が増えている。毎年、都立駒込病院、都立墨東病院等から定期的に数名の研修医を各々3～6ヶ月間受け入れる。また、消化器内科・外科の医師を対象として、内視鏡診断に関する専門研修を実施する。

なお、当協会は、日本消化器内視鏡学会及び日本消化器がん検診学会から内視鏡・X線に関する指導施設として認定されている。

(3) 放射線技師に対する研修

当協会は、医療機関で胃X線撮影を担当する診療放射線技師を対象とする実技研修が行える施設であり、研修を希望する診療放射線技師を積極的に受け入れる。

研修は、日本消化器がん検診学会認定の胃がん検診の専門技師が指導にあたる。

(4) 平成消化器懇話会の開催

急速に進歩している消化管疾患の診断及び治療に関する最新の知識を習得する場として、地域の医師等を対象に「平成消化器懇話会」を年3回開催する。

平成25年度は、次のテーマを予定している。

- 6月 咽頭・喉頭がんの内視鏡診断
東京医科歯科大学 食道外科 川田研郎先生
- 10月 大腸がんの腹腔鏡手術
都立駒込病院 内視鏡外科 松本寛先生
- 2月 大腸がんのNBI診断
広島大学 内視鏡診療科教授 田中信治先生

4 普及啓発事業

消化管がんに対する正しい認識と早期発見のための定期検診の重要性をはじめとして、がん対策の基礎知識及び生活習慣病も含む幅広い健康管理法についての啓発活動を展開している。

具体的には、周辺医師会・病院等と連携のうえ講演会や読影会を開催し、上部・下部内視鏡、超音波、診断 X 線（胃透視）の撮影技術及び読影・診断技術の向上に努めている。また、企業の健康管理担当者等を対象にセミナーを開催するなど、企業従業員の健康管理に必要な情報を提供し、従業員健康管理を支援している。

(1) 保健指導者セミナー（「健康開発りぽーと」の発行）

保健指導者セミナーは、疾病及び健康診断の有用性を啓発することを目的としている。

対象は、健康保険組合及び各企業の健康管理室等の健康管理担当者、産業医、日本橋医師会並びに早胃検倶楽部会員等であり、年 1 回（10 月又は 11 月）開催する。

セミナー終了後、保健指導者セミナーの講演記録を『健康開発りぽーと』として小冊子にまとめ、協会の検診受診者等に配布する。

平成 25 年度は、「ヘリコバクターピロリ診療の最前線」を取りあげる予定である。

(2) 公開講座

消化器がんに対する正しい知識についての理解を深めることを目的として、地域住民を対象に「公開講座」を年 2 回開催する。

今年度は、次のテーマを予定している。

- 7 月 楽に受けよう胃内視鏡検査
- 11 月 インフルエンザ・感染性胃腸炎

(3) ニュースレターの発行

協会の診療所患者や検診受診者に対して、がんや生活習慣病、検査方法等をわかりやすく解説した「ニュースレター」を四半期に 1 度の割合で発行する。

平成 25 年度は、次のテーマを予定している。

- 6 月発行 甲状腺の病気
- 9 月発行 骨密度測定
- 12 月発行 脂質異常症
- 3 月発行 鎮静下内視鏡検査

5 検診・診療事業

(1) 検診事業

企業からの委託による従業員を対象とした健康診断をはじめとして、中央区住民を対象とした区民検診、個人の方を対象とした健康診断等、さまざまな健康診断を行っている。

健康診断としては、人間ドック（日帰り半日コース）、生活習慣病検診、法定検診及び婦人科検診等の各種検診を取り扱っている。平成 25 年度は、約 14,000 人の検診を予定している。

また、企業の従業員検診については、委託企業へ出向きそこで検診するという巡回検診にも対応している。平成 25 年度は、約 12,000 人の検診を予定している。

(2) 診療事業

附属茅場町クリニックは、地域住民、近隣事業所勤務者のほか、近隣医療機関等からの紹介により、当クリニックの受診を希望する方を対象に外来診療を行っている。

診療日 : 月曜日～土曜日（土曜日は、第 2 及び第 4 週の午前中のみ）

診療時間 : 午前 9 時～午後 4 時（午前 11 時 30 分～午後 1 時を除く。）

診療科目 : 内科、消化器科、放射線科

呼吸器専門外来、肝臓専門外来

来院見込数（年間延べ人数） : 10,000 人

(3) 特定保健指導

平成 24 年度から、特定健診においてメタボリック症候群該当者と判定された特定保健指導対象者に対して、特定保健指導を行っている。

指導日 : 火曜日及び木曜日

指導時間 : 午後 1 時～午後 4 時

指導内容 : 医師による面談、保健師による指導、行動目標及び行動計画の作成等

6 法人運営

(1) 評議員会・理事会の開催予定

平成 25 年 5 月下旬	理事会（決算）
平成 25 年 6 月下旬	評議員会（決算）
平成 25 年 11 月下旬	理事会（業務執行報告）
平成 26 年 3 月下旬	理事会（予算）

(2) 研究用機器の整備

研究対象の底辺拡大、がん検診の高度化及び総合化への社会要請の変化に対応し、質・量ともに研究事業の成果の向上及び検診事業の充実を図るため、引き続き内視鏡システム・スコープ等の研究用機器を整備する。

(3) 資金計画

機器装置、設備等の更新をはじめ事業に必要な資金は、自己資金のほか寄附金及び賛助会費等の援助を得て賄うとともに、計画的な執行に努める。

(4) 法令遵守（コンプライアンス）の徹底

当協会の運営に関する法令、規程等を職員に周知するとともに、その遵守を徹底し、職員のコンプライアンス意識を高める。

Ⅱ 平成 25 年度収支予算書

平成25年度 収支予算書
(正味財産増減予算書)

平成25年4月1日から平成26年3月31日まで

(単位:千円)

	公益目的事業 会計	法人 会計	内部取引 控除	平成25年度予算 (A)	平成24年度予算 (B)	増 減 (A-B)
<一般正味財産増減の部>						
I 経常増減の部						
1. 経常収益						
① 基本財産運用益						
基本財産受取利息	1,554	0	0	1,554	1,182	372
基本財産受取配当金	503	0	0	503	31	472
② 受取会費						
賛助会員受取会費	7,473	0	0	7,473	7,095	378
③ 事業収益						
診断診療収益	656,466	0	0	656,466	670,640	△ 14,174
研修受託収益	7,630	0	0	7,630	7,000	630
④ 受取寄附金						
一般受取寄附金	20,000	0	0	20,000	43,000	△ 23,000
研修事業寄附金	4,000	0	0	4,000	3,600	400
⑤ 雑収益						
受取利息	522	0	0	522	70	452
雑収益	1,613	0	0	1,613	2,701	△ 1,088
経常収益計	699,761	0	0	699,761	735,319	△ 35,558
2. 経常費用						
① 事業費						
給料手当等	283,274	0	0	283,274	285,362	△ 2,088
退職給付費用	5,342	0	0	5,342	7,522	△ 2,180
福利厚生費	31,774	0	0	31,774	27,954	3,820
旅費交通費	2,445	0	0	2,445	1,700	745
通信運搬費	5,682	0	0	5,682	5,706	△ 24
医療材料費	40,526	0	0	40,526	55,002	△ 14,476
消耗品費	19,823	0	0	19,823	14,382	5,441
修繕費	22,646	0	0	22,646	23,986	△ 1,340
図書費	1,493	0	0	1,493	1,411	82
印刷製本費	9,038	0	0	9,038	10,083	△ 1,045
光熱水料費	4,099	0	0	4,099	3,731	368
賃借料	79,789	0	0	79,789	80,079	△ 290
委託費	95,228	0	0	95,228	108,454	△ 13,226
リース費	1,324	0	0	1,324	8,030	△ 6,706
会議費	229	0	0	229	301	△ 72
保険料	410	0	0	410	431	△ 21
支払負担金	801	0	0	801	801	0
支払手数料	1,100	0	0	1,100	1,281	△ 181
交際費	200	0	0	200	200	0
広告費	604	0	0	604	542	62
租税公課	5,914	0	0	5,914	2,012	3,902
減価償却費	59,006	0	0	59,006	47,057	11,949
雑費	1,893	0	0	1,893	1,658	235

	公益目的事業 会計	法人 会計	内部取引 控除	平成25年度予算 (A)	平成24年度予算 (B)	増 減 (A-B)
② 管 理 費						
給 料 手 当 等	0	45,324	0	45,324	48,973	△ 3,649
退 職 給 付 費 用	0	2,691	0	2,691	2,360	331
福 利 厚 生 費	0	6,105	0	6,105	3,156	2,949
旅 費 交 通 費	0	360	0	360	360	0
通 信 運 搬 費	0	100	0	100	270	△ 170
消 耗 品 費	0	100	0	100	100	0
図 書 費	0	50	0	50	50	0
印 刷 製 本 費	0	170	0	170	170	0
光 熱 水 料 費	0	188	0	188	176	12
賃 借 料 費	0	1,995	0	1,995	2,125	△ 130
委 託 費	0	369	0	369	369	0
リ ー ス 費	0	0	0	0	0	0
会 議 費 料	0	480	0	480	680	△ 200
保 険 料	0	1,329	0	1,329	1,329	0
支 払 負 担 金	0	102	0	102	102	0
支 払 寄 附 金	0	50	0	50	50	0
支 払 手 数 料	0	30	0	30	20	10
交 際 費	0	100	0	100	100	0
顧 問 料	0	1,710	0	1,710	1,710	0
減 価 償 却 費	0	280	0	280	361	△ 81
雑 費	0	70	0	70	180	△ 110
経常費用計	672,640	61,603	0	734,243	753,531	△ 19,288
評価損益等調整前当期経常増減額	27,121	△ 61,603	0	△ 34,482	△ 18,212	△ 16,270
3. 基本財産評価損益等	0	0	0	0	0	0
4. 特定財産評価損益等	0	0	0	0	0	0
評価損益等計	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	27,121	△ 61,603	0	△ 34,482	△ 18,212	△ 16,270
II 経常外増減の部						
5. 経常外収益	0	0	0	0	0	0
6. 経常外費用	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0
他会計振替	0	0	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	27,121	△ 61,603	0	△ 34,482	△ 18,212	△ 16,270
一般正味財産期首残高	531,418	0	0	531,418	549,630	△ 18,212
一般正味財産期末残高	558,539	△ 61,603	0	496,936	531,418	△ 34,482
< 指定正味財産増減の部 >						
7. 一般正味財産への振替額	0	0	0	0	0	0
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0
正 味 財 産 期 末 残 高	558,539	△ 61,603	0	496,936	531,418	△ 34,482

(注)科目変更に伴い、平成24年度の科目における予算額の一部を組み替えている。

平成25年 4月 1日

公益財団法人 早期胃癌検診協会 事務局

〒103-0025

東京都中央区日本橋茅場町2丁目6番12号

Tel. 03-3668-6803

Fax. 03-3639-5404

URL : <http://www.soiken.or.jp/>

E-mail : mail@soiken.or.jp

